

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「集めよう、よいところ」 教材名「集めよう、よいところ」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、相手との関係を作る言葉の働きに気付き、問いや応答が相手にどう伝わるかを確かめている。思考・判断・表現では、友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理する。交流や試行の前後を比べ、よさと根拠の対話記録を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手との関係を作る言葉の働きに気付き、問いや応答が相手にどう伝わるかを確かめている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理している。（A(1)オ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、互いの立場や意図を明確にする話合いを中心に学ぶ。友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理する活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)アとA(1)オに関係する学習である。成果は、よさと根拠の対話記録に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、性格を決め付けた評価だけを伝えることである。現に見た行動と自分の受け止めを分ける。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理する。 ○そのよさはどんな出来事から理解できたかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、よさと根拠の対話記録を見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）



6 本時の指導 (1/2)

(1) 本時の目標

友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「そのよさはどんな出来事から理解できたか」 【めあて】互いの立場や意図を明確にする話合いについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ行動にも別のよさを見ていた。 ・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。性格を決め付けた評価だけを伝える姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理する。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認めて質問や応答を返す。 4 「そのよさはどんな出来事から理解できたか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認め、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ行動にも別のよさを見ていた。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	現に見た行動と自分の受け止めを分ける。知識・技能では、相手との関係を作る言葉の働きに気づき、問いや応答が相手にどう伝わるかを確認めている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理している。(A(1)オ) (発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 よさと根拠の対話記録を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】伝えたいことを選び、相手の応答を確認めると、話す内容や言い方を見直せる。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。そのよさはどんな出来事から理解できたかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (よさと根拠の対話記録と実際の言葉の使用) ・ 態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、友達のよいところを具体性のある出来事と一緒に伝え、相手の考えも聞いて整理している姿である。発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録を基に判断する。性格を決め付けた評価だけを伝える場合は、現に見た行動と自分の受け止めを分ける。読み書きの速さや発表の回

数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には互いの立場や意図を明確にする話合いを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側によさと根拠の対話記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

